

## タイプディレクターが答える

# 欧文書体 Q&A

ドイツの書体メーカーでタイプディレクターとして活躍している筆者が実践的な欧文タイポグラフィの知識を Q&A 形式で答える連載の第 3 回。今回は、読者の方からいただいたご質問にお答えします。

## Q. Futura はナチスを連想させるため、ドイツやイスラエルでは使わないと聞きましたが本当ですか？

沖縄のデザイナーの方から Futura 書体についての質問をいただきました\*。

3年間ドイツに住み、世界中の書体関係のコンファレンスに行きますが、私が調べた限りでは、ドイツをはじめ欧米やイスラエルでは一般的に使われています。

ドイツに移り住んですぐ、ナチスを連想させるものに対しては非常に敏感なことに気がきました。あるドイツ人学生がつくった書体についての助言で、その学生の頭文字の N と S を大きく見せるといいと言ったら、学生はすぐに「NS の 2 文字はナチス (Nationalsozialist) の略になるからダメです」と言いました。またドイツでは発言のための拳手は、ナチス流の敬礼を思わせないように人差し指を立てます。大人ばかりでなく私の長男の通う小学校でも同様です。そのドイツで今も Futura は頻繁に使われています。(図 1)。

Futura は反ナチスのデザイナー Paul Renner によって設計され、そのデザインにはバウハウスの影響が見られます。1927 年に Futura が発売されて売れ行きは好調でしたが、バウハウス運動はその後勢力を拡大したナチスによって解散させられ、Futura はナチスによって嫌われました(注: p. 4 を参照)。

\*: 元の質問は、「(中略) ナチスとも関わりがあるので、国際的な場面では使用しない方が良いという記述もある本で見えています。この辺りの事情もご存じでしたらお教えいただきたく思います。」



図 1 ドイツでは Futura はごく普通に毎日見かける。左から女性誌のファッション特集、有名メーカーのハンドクリーム、大手スーパーマーケットのチラシ。

世界の書体デザイン界の著名人に、「Futura がナチスを連想させる」という話をどう思うかたずねてみました。ドイツに住む Hermann Zapf 氏の答えと、英国に生まれ現在米国に住む Matthew Carter 氏の答えは同じで、「そんな話は初めて聞いた。間違っている」でした。他にも様々な国籍の方の意見を集めました。誌面の都合でごく一部のみを載せます。

Wolfgang Hartmann 氏（現在スペインのバルセロナにあり Futura の著作権を当時から所有する Bauer 活字鋳造所社長、今も Futura の金属活字を鋳込んでいる）「まったくナチスとは反対の書体です。Bauer 鋳造所の当時の社長である私の父はユダヤ人ではないのに、ライバルの活字会社からは『ユダヤ人の経営する鋳造所』と根拠のない告発があったと聞いています」

Steven Heller 氏（米国ニューヨークに住むアートディレクター。デザイン教育、タイポグラフィ教育に関する本など多数の著作あり。ナチスのシンボルについて分析した『The Swastika』も彼の著書）「Futura は決して、決して、決してナチスの書体ではないと断定する。ナチスよりも前につくられ、他のモダニズム同様ナチスによって拒絶された書体なのです」

Jan Middendorp 氏（オランダ生まれ、現在ベルギーに住むデザイン雑誌の編集者）「その説はフォルクスワーゲンをナチの車だと言うよりも無理があると思う。スイスの雑誌『Typografische Monatsblätter』の 2000 年 5 月号に『ナチスが Futura を好んで使った』と書いた人がいたが、問題視されて再調査のあと翌年の 1 月号にその説を打ち消す記事を出しています（資料を添付してくれました）」

Yanek Iontef 氏（ATypI 国際タイポグラフィ協会イスラエル代表）「そんな話は初めて聞きました。Futura はどちらかというとなチスの反対のイメージで、30 年代のイスラエルでもよく使われて、Futura と合わせるためのヘブライ語書体 Aharony (図 2, 3) が 1934 年につくられたほどの人気でした。まったく滑稽な話です。ここイスラエルでは Futura は今も人気の書体です。デザイナーの友人の使用例を送ります (図 4)。普通のイスラエル人は Futura と他のサンセリフとを見分けられないし、私個人は Futura をナチスの文字とは思いません」



図 2 イスラエルの活字会社の見本帳から、Futura のデザイン要素を取り入れたヘブライ語書体 Aharony と、同じ会社から販売されていた Futura のページ。



図 3 イスラエルの美術学校の印刷工房で使われた見本帳。1970 年頃。Garamond や Baskerville とならんで Futura が 4 種類ある。



図 4 現代のイスラエルのデザイナー Daniel Goldberg のデザインしたイスラエル美術館のカタログ。ヘブライ語書体と Futura とを同ページに入れている。



Christopher Burke 氏（英国の書体デザイナー、研究家。『Paul Renner』の著者）

「びっくりしました。ナチス書体というものがあるとすれば、その正反対に位置するのが Futura です。Renner は頑固な反ナチスで、Futura の設計をはじめたのはナチスが勢力を拡大するずっと前から、ナチスの書体だというのはおかしい。Renner は当時書いた本のなかでナチスの文化政策や事実無根のユダヤ人弾圧を批判しています。もしナチスと関係のある書体があるとすれば、それはプロパガンダに頻繁に使われたブラックレター書体だと思いますが、その書体デザイナーもナチ党員ではありませんでした。書体に政治的意味合いが付随することはあり得ません。ブラックレター書体でさえも、第三帝国以前のドイツや他の国で長い歴史を持っていることを考えるとナチスの書体とは言えないのです（図 5）。これを雑誌に書くときに、私の著書を引き合いに出してください。お願いします。数年前から事実が提示されているにもかかわらず、そのような発想が出てくることは痛切の極みです。まだ私の著書を読んでくれる人の数が十分ではないのでしょうか？」

Futura はナチスの勢力拡大の前から広く使われていた書体ですから、30 年代にドイツ中の印刷屋から Futura が消えたわけではありません。ナチスが Futura を用いたことがないとは言えませんし、それを嫌悪する人がいないと断定はできませんが、欧米やイスラエルのプロフェッショナルの持つイメージはナチスと正反対のようです。あとは皆さんの判断にお任せいたします。

ナチスが執着したドイツ文字は、1941 年にナチスによって使用禁止となります。ドイツ文字の一種であるシュパーバヒヤ文字（図 6）がユダヤの文字であるというのがその「理由」でした。これを Hermann Zapf 氏に言わせると「まったくのお笑いだったよ。占領した国の人には読みにくいドイツ文字が邪魔になったんだ。だからそんな屁理屈をつけてまで、それまで持ち上げていたドイツ文字を禁止にする必要があったんだ」ということです。そのドイツ文字も、レストランの看板やビールの銘柄、古城の案内など伝統を表現したいときに現在でもよく用いられます。深い歴史を持った美しい文字です。使用をためらう理由はどこにもありません。

残念ながらすべてのお名前とご意見を載せることができませんでしたが、この調査に協力してくれた方々に感謝いたします。



図 5 ブラックレター体は、中世ヨーロッパの写本書体として広く使われました。図版は 15 世紀のフランスの事例。（『Le Breviaire de Chateauroux』から）

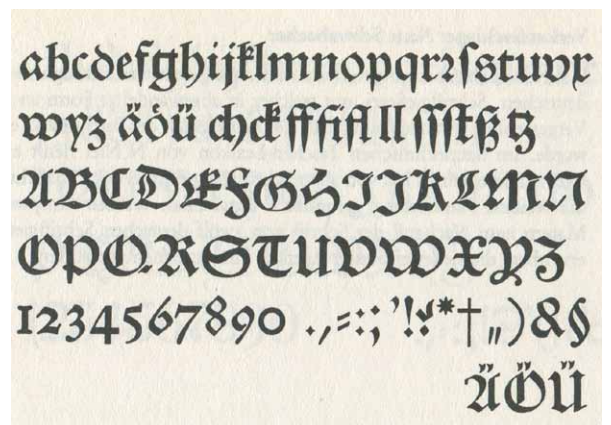


図 6 活字書体の Alte Schwabacher  
（ドイツの活字研究家ゲオルグ・カンドラー氏による書体見本帳『Alphabete』から）

(注)

以下は Christopher Burke 氏が Renner の生涯を書いた『Paul Renner: The Art of Typography』からの抜粋。

Futura の設計者の Paul Renner 氏は反ナチス的な文章を出版するためにドイツの印刷業者に原稿を持ち込んだが断られ、スイスの知り合いの印刷所でようやく印刷できた。ナチスによってミュンヘンの美術学校の職を追われた後は定職を持つことが許されず、知り合いから本の装丁の単発の仕事を受けるほかは Futura のロイヤリティで生活していた。(127, 150, 151 ページ)

ナチスは政権をとった 1930 年代に国威高揚のためにドイツ文字 (ブラックレター書体) を推奨して、モダニズムを感じさせる Futura を嫌った。実際にナチスはドイツ

文字を使えと宣伝ビラをつくった。「ドイツ文字は反ドイツ勢力に立ち向かう武器である」などのスローガンが黒々としたドイツ文字で刷られた。ナチスの時代には様々なドイツ文字の活字がデザインされ、なかでも抑揚を削ぎ落とした硬質なブラックレター書体が使われた。Renner が編集していた定期刊行物の『Grafische Berufsschule』は 1933 年に彼が職を追われてすぐに本文書体が Futura からドイツ文字に変わり、Kurt Schwitters が Futura を使ってデザインしたハノーファー市の印刷物も同時期にドイツ文字に切り替えられた。(148, 149 ページ)

なお、『Grafische Berufsschule』の使用書体については私が独自に調査してベルリン市図書館から図版掲載の許可を得ました (図 7、図 8)。

## Grafische Berufsschule 2

Vierteljahrsschrift der Grafischen Berufsschule München    *Schriftleitung*: Oberstudiendirektor Paul Renner  
*Satz und Druck*: Meisterschule für Deutschlands Buchdrucker, München  
*Verlag*: Geschäftsstelle des Vereins Münchner Buchdruckereibesitzer, München, Sendlinger Straße 2

図 7 『Grafische Berufsschule』のタイトル部分。

Paul Renner のナチによる逮捕数ヶ月前の 1933 年 2 月号。Futura ですべて組んである。

## Graphische Berufsschule

Vierteljahrsschrift der Graphischen Berufsschule München

Verlag der Geschäftsstelle des Vereins Münchner Buchdruckereibesitzer, München, Sendlingerstraße 2  
Satz und Druck der Meisterschule für Deutschlands Buchdrucker, München

Graphische Berufsschule

Jahrgang 1933-34

Heft 4

Seiten 1-16

München, Februar 1934

図 8 Paul Renner が編集長を辞めさせられた後の、同雑誌のタイトル部分。1934 年 2 月号。

誌面から Futura が消えてドイツ文字になった。

図 5、図 6 とともに資料協力：Staatbibliothek zu Berlin, Abteilung Historische Drucke (ベルリン市図書館歴史的印刷物部)